

キッズ ふくしま インたがだ

第6号

2017年6月1日

(発行)

キッズふくしまインたがだ実行委員会

(事務局)

〒943-0892

新潟県上越市寺町2-24-4

真宗大谷派高田教務所内

TEL:025-524-3913/FAX:025-524-2645

URL:<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

キッズふくしま実行委員

高田教区第六組 西光寺

とよしま まこと
豊島 信

現在、真宗大谷派全国30教区のうち、23教区が規模の大小はあれども、それぞれの教区が主体となって福島の子どもたちの保養事業を行っている。全国には他の任意団体も存在し、放射能の影響による制限の受けにくいところで子どもたちに目いっぱい遊んでもらいたいこと、少しでも体内から放射性物質が排出されることを目的として実施している。本山当局も今後も継続して支援していくとしている。

この保養事業は、本来ならばチェルノブイリの原発事故から30年以上経った現在もお、ベラルーシ政府やウクライナ政府が継続しているように、国の施策として行われなければならない。1円も出さない日本政府の問題は、握り拳を作りながら今は置いておく。

その保養事業に子どもたちを送り出している福島の親御さんたちは、大手を振って喜んでいるかとい

えばそうではない。福島では、自分の子どもを保養に参加させていることを、周囲に隠している方が少なくない。保養に参加させるということとは、福島が危険だということを外に吹聴していることになり、福島の復興の足を引っ張ることになるのだという。

国は、除染やインフラの復旧が整った町から避難指示を解除している。しかし本来の年間の被ばく線量、1マイクロシーベルト以下という基準値が20マイクロシーベルトに引き上げられたことや、県は、放射線被ばくと発症の因果関係を認めていないものの、子どもたちの甲状腺がんの数が増え続けている現状に怯えて暮らしている人がいる。一方、国が大丈夫だといっているのだから信じるより仕方ないし、考えても仕方ないとして暮らしている人もいる。

いずれにしても、どちらが正しいかということよりも、同じ福島の中でそのような考え方の違いが互いに尊重されず、分断が生じ、声の小さな方の口が塞がれていくこと、声

が出せないような閉塞感に問題の根深さがある。

人間はどこまでいっても互いに正しいことを主張し、分かり合えない。認め合わなければならぬと言いつつも認められないことに悩み、苦しむ。しかし、人間はそもそも分かり合えないことがあるという諦観を抱きながら、それでも関わり続けていくことと、正しさだけを主張し、追い求め突き進んでいくことはまるで違う。その諦観が二元論でしか物事を捉えられない緊張状態の人間の思考に、ある種の弛みを生み出す。

このキッズふくしまが保養ということからいえば、至らないものを知りつつも突き動かされるのは、やはり子どもたちの笑顔と、同時にその諦観が継続するという難関を超える力になっっているからかもしれない。



キッズふくしまインたかだ

スプリングキャンプ 2017



2017年 3月25日~30日

池の平センター日程

3月25日~27日



1日目 (3月25日)

センターに到着



四〇人の子どもたちが元気に到着。長旅の疲れも見せず、すぐさま雪原に飛び込んでいきました。久しぶりの再会を喜ぶ人、「初めまして」の人、大人も子どもたちもあつという間に打ち解けて笑顔が溢れました。今年記録的な小雪でしたが、ここ池の平は別格です。まだまだ1メートル以上の雪がこの青少年センター周辺には残っています。雪の新潟を存分に楽しんでもらえる

準備は万端で、福島の子どもたちを迎えることができました。





2日目 (3月26日)
雪上運動会



午前中はみんなで雪の障害物づくり。午後からはそのアトラクションを使って遊びました。お昼も外でおにぎりを食べて、一日中雪の上で遊びました。



スタッフ募集!

※ お問い合わせは事務局まで
実行委員会では随時スタッフを募集しています。

～池の平会場において～

- ① 全日程通じての参加
- ② 短時間での参加
- ③ 食事の準備、片付け
- ④ 子どもたちと遊びたい人
- ⑤ 現地への送迎

～ホームステイにおいて～

- ① ホームステイの受け入れ
- ② 食事のみの提供 (そば打ち、餃子、BBQなど)
- ③ 催し物や行事の提供 (お講、子供会、陶芸教室、各種スポーツなど)
- ④ 資金の援助
- ⑤ 移動の送迎サポート



よろしくお願ひします!



ドクターKの 科学実験



夜はセンター内での楽しみ
会。そして、窓の外には幻想的
なキャンドルの文字が浮かび上
がりました。日中の疲れも感じ
させない程元気に楽しむことが
できました。

指1本で大人を抑え込む

手のひらに乗るシャボン玉



雪原に浮かび上がるキャンドル文字と絵文字

ボランティアの声

キッズふくしまに参加して

新潟県立看護大学

3年生 水澤 萌さん

私は、今回初めてこのキッズ
ふくしまスプリングキャンプ
にボランティアスタッフとし
て参加させて頂きました。

小学生の子どもたちと遊ぶ
機会があまりなかったので、ど
う接したら良いのか分からず、
始まる前は不安でした。しかし、センタ
ーに着くとすぐに子どもたちの方から
「一緒に遊ぼう！」と話しかけてきてくれ
たので、一気に不安と緊張は無くなりま
した。

外に出て雪合戦やそりで遊んだり、夜
のお楽しみ会でゲームをしたり、お餅つ
きをしたりと、子供たちがどんなところ
でも全力で楽しんでくれたので、私
も一緒になって全力で楽しむことがで
きました。二日目の雪上運動会は、スタ
ッフも参加してリレーを行いました。運
動会後は、大人たちが疲れきっている中

子供たちの元気の良さには驚かさ
れました。何より、子供たちがこ
んな風に何の心配もすることな
く、外で思い切り楽しそうに遊ん
でいる姿を見られたことが一番嬉
しかったです。

また、センターで一緒に過ごし
ている中で、泣いてしまったり、
具合が悪くなってしまった子に
「大丈夫？」と声をかけてあげた
り、一人でいる子に子供たち自ら
「一緒に遊ぼう」と話しかけてあげ
たりと、子供たちの思いやりのあ
る優しい一面も見られてとても感
動しました。

今回はホームステイには参加せ
ず、センターでの3日間だけの参
加となりましたが、子どもたちや
親切なスタッフの方々のおかげで
とても楽しい時間を過ごすことが
できました。また、たくさんの学
びも得ることができました。次回
の夏のキャンプにもぜひ参加して
みたいと思います。ありがとうございました。



臼と杵を使った本格的な餅つき。お雑煮にして食べました。
お餅つきの後、センターを後にして、各ホームステイ先へ出発しました。

1から案を出すなど一人ひとり自分の意見が言える場合は、とてもいいと思
いました。作っていくうちに、少し案とはかけ離れてしまったけど、立派なトンネルを子ども達と作れた事がとても楽しかったです。
子ども達とお別れをするときに「またね」や、「寂しい」などと声をかけてもらえることが私にとって一番のスタッフとしてやりがいを感じたことです。今回のキッズふくしまに参加できてとても良かったです。

3日目 (3月27日)

お餅つき

高校生スタッフの声

高校3年生 関矢 江利さん

今回初めてキッズふくしまにスタッフとして参加しました。3月ということでしたが、たくさん雪が積もっており、この中でやるのかと不安でした。でも、子ども達と3日間を通して仲良くなれたり、ふざけ合ったりできて楽しかったです。

キッズふくしまにお力添えいただきありがとうございます

「キッズふくしま」とは福島第一原発事故を機に始まった、福島県の子どもたちのための保養活動です。

現地の声には、「個人宅の放射能除染が未だに行き渡っていない」、「遊び場である公園に連れて行ったり、遊ばせたりする事が不安」などという声が聞かれます。また子どもたちからも「普段遊んでいた空き地は数値高いから遊べない」、「山に入っちゃいけないって言われた」等、大人は不安からのストレスに、子どもたちは遊び場を失うストレスに悩まされる日々が続いています。

「キッズふくしま」は、大人たちが便利という言葉にごまかされて思考を止め、本当の安全を迫及して来なかった事や、原発事故、放射能汚染等の負のバトンを子どもたちに渡さなければならぬ事に対する「ごめんなさいから始める」活動です。子供たちが感じているストレスの軽減と、受けている内部被ばくの減少を目的として、たとえ一週間という短い期間でも汚染されていない地域で過ごし、思い切り遊んでもらいたいと思っています。ご理解の程宜しくお願い致します。

皆様からのご寄附をお願いします

- 郵便局からの振込 -

口座記号番号 (ゆうちょ銀行)

00500-1-101787

口座名 キッズふくしま たかだ

- 他金融機関からの振込 -

店番 059 (ゆうちょ銀行)

口座名 キッズふくしま たかだ

預金種目 当座

口座番号 0101787



前回のキッズふくしまから6月まで以下の通りのご寄付をいただき、
合わせて各種活動に使わせていただきました事をご報告いたします。

収入の部		支出の部	
東部お待ち受け大会募金活動	37,415円	福島県よりキッズOBをスタッフ	
4組、5組、8組お待ち受け大会		として招集の為移動費及びスタッ	
募金活動	38,801円	フ滞在費	16,540円
7組お待ち受け大会募金活動	33,893円	募金振込手数料	260円
2017年5月29日現在の口座残高		761,785円	

以上の通りです。頂いたご寄付は、スタッフがまだまだ不足している為、キッズOBスタッフの交通費、また今後の「キッズふくしま」の活動やそれに携わるスタッフの知識習得及び技術の研鑽の為に使わせていただきます。ご理解いただき、継続してご協力の程お願い致します。

子供達との関わりで気付いたこと

新潟県立看護大学

3年生 波多野 愛香さん

「こんにちは！」センターに着き、まず初めに聞いたのが子供達の元気な挨拶でした。キッズふくしまに参加していた子供達は本当に元気よく活発に遊び、スタッフとして初参加の私も沢山の子供達と触れ合うことができました。子供達と関わっていた中で、私は子供の様々な一面を見ると共に、子供の気持ちの理解が大切なのだと気付きました。

子供達と遊んでいる最中、さつきまで笑顔で遊んでいた子が、友達と些細なことで喧嘩をしてしまい急に泣き出したかと思えば、すぐにまた笑顔になり遊びを再開していた場面がありました。子供達の感情はすぐに変わりやすく、スタッフである大人たちはそういった子供達の変化に気づいてあげることが大切だと学びました。その子が今どうして悲しいのか、困って

ボランティアの声

いるのかを聞き、その気持ちを理解しようとする事で子供の支えとなり、子供の成長を手助けできるのではないかと思いました。

2日目の雪上運動会では、子供同士で協力する姿が見られました。コース上に障害物を作る作業では、疲れてしまい遊び始めた子に対して、

高学年の子供達が頑張ろうと声をかけ黙々と作業を続けていました。そして再びみんなが作業に取り組む姿を見て、さすが高学年だな、と感じる場面がありました。スタッフが子供達に声をかける事も大切ですが、子供達同士で目標達成に向けて活動することも大切なのだと思います。

3日間という短い間でしたが、充実した日を過ごすことができました。子供達もこのキッズふくしまで沢山の思い出を作り、少しでも成長できたのかなと思います。楽しかった思い出と成長したことを糧にして、新しい学校生活をこの春からスタートしている事を願っています。

3日目 (3月27日)
~6日目 (3月30日)
ホームステイ

様子を写真で紹介します



大きなカニを丸ごといただき！

池の平での二泊三日の日程を終え、各ホームステイ先へ移動しました。ステイ先では、それぞれの地域の特徴を生かした体験や、日常生活ではあまり経験することのできないことをさせてもらったりと、二泊四日を有意義に楽しく過ごしてもらえよう工夫がなされていきました。



ふきのとう採りに夢中
お土産に持って帰りました



大きなかまくらの中でティータイム



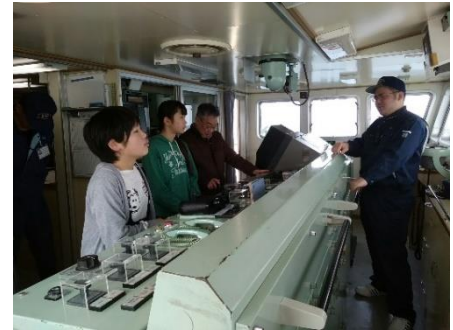
屋外アスレチックに挑戦



高校の実習船
操舵室も案内してもらいました



動物園や水族館にも行きました



足が痛くなるほどスケートをしました



ホームページを開設しています

これまでの「キッズふくしまインたかだ」の取り組み、今後の予定などを、たくさんの写真と共に随時アップしています。ぜひアクセスしてみてください。

なお、この広報誌のPDFデータもアップしています。印刷・拡散いただければ幸いです。



※PDFデータはカラー紙面です

<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>



陶芸教室に参加
絵付け体験に真剣なまなざし



震災から6年、成長した子ども達

郡山市 平栗寛美様

早いもので、東日本大震災から6年が経ちました。

6年前の3月11日、14時46分、自宅の前で子ども達が乗った幼稚園バスの到着を待っていた時に地震は起きました。ものすごい揺れと地鳴り、道路はひび割れこのままお腹の中の赤ちゃんが死んでしまうのかなと泣きながらしゃがみこんでいたのを覚えています。子ども達が無事に帰ってきてくれて安心したのも束の間に、余震と放射能に怯え一時避難しました。

その後長女の小学校の入学もあり、郡山に戻ってきました。震災後しばらくの間、外遊びなどが制限され、飲食物を過剰に意識する日々が続き、子ども達にはとても窮屈な思いをさせてしまいました。親戚がキッズふくしまに参加して、誘っていたので参加の機会に、長男は1年生の春休みのスプリングキャンプから参加させて

いただきました。親の心配とは裏腹に、元氣よく笑顔で新潟に旅立っていきましました。新潟では、放射能を気にすることなく外でもたくさん遊べて、センターやホームステイ先での素敵な出会いもあり、少しお兄さんになって帰ってきました。それ以降、長女、長男ともに何度もキッズふくしまに参加させて頂いております。長女は今年、小学校最後のスプリングキャンプでした。センターでは、キッズふくしまで仲良くなった友達と楽しく過ごし、大好きな方のお宅にホームステイができて、とても満喫した春休みを送れたようです。貴重な経験をさせていただき、また子ども達が羽をのばす機会を作っていたら、キッズふくしまの活動には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。震災後に生まれた次男が来年少小校に入学するので、できればキッズふくしまの活動を続けていただけると嬉しいです。

スプリングキャンプに参加して

いわき市 澤田ひろみ様

今年いわき市には、大した雪も降ることなく、子どもにとっては物足りなさもある冬でしたが、「キッズふくしまスプリングキャンプ」のお陰でとても楽しい春休みへと変わりました。

まず、今では殆んどできなくなった雪遊び。まったく降らないわけではありませんが、カマクラを作るなんてまずない。親の私でさえ雪だるまの大きいのを作った経験しかありません。まして、雪上運動会なんて一生心に残る事でした。皆でついたお餅も美味しかったです。親としても「行ってみたいな」と思いました。

今はなかなか他人の家でお世話になることや、宿泊経験が少なくなっている様に思います。年齢の違う人との交流や、別地域の空気の感のようなものを肌で感じ取ってくれば、今後の生活に自信や期待をもつて生活してくれるのではと、親バカながら願うのです。

つい先日も報道で福島県の子ども達があちこちでいじめに遭うと

聞きました。原発の被害から逃れた子ども達が避難先で傷つけられる事は本当に悲しい事です。見知らぬ人同士でも、寝食を共にすると一歩近づけた様でお互いを敬う事ができると思います。それを思うと毎年私たちを受け入れ、あれやこれやと尽力して下さるキッズふくしま実行委員会、並びにキッズふくしまを支えておられる方々には本当に感謝しております。

毎回、帰りのバスから降りてくると、言葉も出ないくらいグッタリと帰ってきます。子どもながらに精一杯気を遣ったのと、目いっぱい楽しんできた事が何われまです。出発した時よりも重くなっている荷物にも、たくさん思い出と少ないお小遣いの中から土産を選んで買ってくださるまじさを感しました。

帰ってきて感想を聞くと、やはり新しい体験が何よりも楽しかったと目を輝かせて話してくれました。触れ合った実行委員の大人の方々がニックネームで呼ぶあたりが、ちよつと大人ぶっているようには見えませんが。